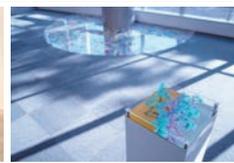
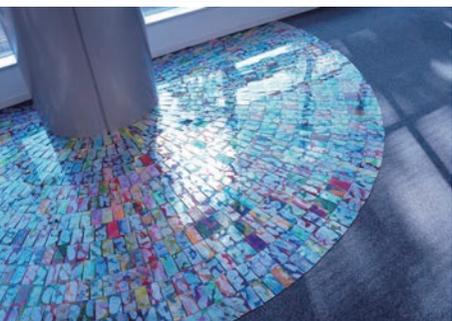
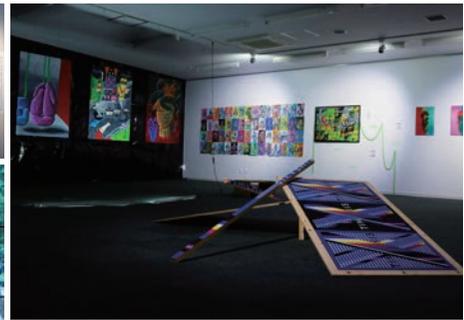


京都精華大学

展示コミュニケーションセンター
2020年度活動報告



京都精華大学

展示コミュニケーションセンター

2020年度活動報告

基本方針

展示コミュニケーションセンター（以下、センター）は、展示を通して全学的な学びの成長度や研究成果を可視化し、表現と社会の関係性を追求する企画展示や発表を学内外においてさらに推進していく役割を担うため、2018年度より新たに設置された。

センターは、学内および学外におけるギャラリーの企画・運営のほか、全学的な学習成果や研究成果の発表を通じ、社会に向けて本学の取組みを積極的に提示・発信していく。

目次

【概要】

基本方針	02
2020年度活動サマリー	04

【展覧会】

ラグランジュ点 -Lagrange point(s)	06
参与観察	08
グランドクロス	10
LOOPEND	12
ひかり	14
Style	16
創造的ドローイング -作家になるために How to be an artist	18
タイカン後期学修成果発表2021	20
京都精華大学大学院1年生研究制作展	22
日日の観察者	24
京都精華大学展2021 PICKS!	28

【基本情報】

来場者数・利用案内	30
施設図面	31

2020年度 活動サマリー

展示コミュニケーションセンターは、2020年度は、創造戦略機構のアクションプランに基づき、企画展や申請展の実施のほか、本館ギャラリーの施設運営、新ギャラリーのオープン準備、教育普及事業（ワークショップ及びトークイベント）、アートフェア出展等の事業を計画していたが、新型コロナウイルス流行の影響を受け、実施困難となったものや軌道修正しながら実施したもの等、この状況下に柔軟に対応しながらの事業開催となった。

企画展は、昨年引き続き、ホテルアンテルーム京都のギャラリーにて、活躍する本学出身アーティストによるグループ展「日日の観察者」を開催し、日々のささやかな出来事や人々の暮らしを観察し、独自の思考と手法で新たな風景を生み出す4名の作家、小出麻代、花岡伸宏、藤野裕美子、松元悠を紹介した。コロナ禍において、オープニングイベントやワークショップ等、人が集まる催しは開催できなかったが、展覧会インスタグラムの運営や展覧会動画の配信など、会場に訪問できない観客にも展覧会を楽しんでいただけるよう工夫した。3ヶ月という長い会期をホテル側より提供いただけたことから、「Go To Travel」実施期間とも重なり、5000人を越える来場者に展示をご覧いただけた。

申請展は、2021年末竣工予定の明窓館の建替工事に伴い、ギャラリーフロールが休館となったため、本館1Fに期間限定で新設した「本館ギャラリー」で実施した。緊急事態宣言による入構禁止を受け、4月のギャラリー開設予定が9月にずれ込むことになったが、9つの展示を開催することができた。

在学生及び教職員による展示としては、「ラグランジュ点 -Lagrange point(s)-」、「参与観察」、「グランドクロス」、「LOOPEND」、「ひかり」、「Style」など、コロナ禍に影響を受けたテーマの展示や、絵画、写真、メディア・アート、テキスタイル、華道など、様々なメディアによる展覧会が開催された。授業の成果発表展示としては、「タイカン後期学修成果発表2021」、「京都精華大学大学院1年生研究制作展」、「創造的ドロ잉 -作家になるために How to be an artist」が、学生の制作・研究活動の集大成として実施された。本館ギャラリーは、本館1F入口という立地や、ガラス壁に囲まれた空間であることから、外から展示が見えて入りやすく、多数の来場者があった。展示空間の広さもコンパクトで、展示慣れしていない在学生にとっても挑戦しやすいギャラリーで好評だったが、事務所工事のため、1月末で閉設となった。

新ギャラリーのリニューアル準備としては、ギャラリーのホームページのリニューアルを行い、スマートフォンやタブレット画面にも対応したレスポンシブデザインや英語ページの増設等、外国人・高齢者等を含め、多様な人々がアクセスしやすいサイトに改修を行い、3月末の公開を予定している。

また、新ギャラリーの運用について、利用規程の作成、申請展マニュアルの見直し、備品の新規購入及びギャラリーのロゴ・サイン計画の検討等を予定していたが、ギャラリー竣工時期の遅れのため、引き続き次年度に検討していくこととなった。また、よりよいギャラリー運営を模索するため、他の美術大学のギャラリーの視察やギャラリー間のネットワーク構築も目標としていたが、出張が難しい状況であったため、こちらも次年度に状況をみながら実施していく。

コロナの影響によって事業実施を断念したものとしては、東京や関西で開催されるアートフェアへの出展や、卒業・修了展会期中に国立京都国際会館で開催予定だったアートフェア「Art Collaboration Kyoto」と連携した卒業ツアーやギャラリストを招聘したトークイベントを予定していた。学外に活動を

広げ、本学及び展示コミュニケーションセンターの活動を発信しようとはかったが、いずれもアートフェア自体が開催中止、延期となったことから、実施を断念することとなった。

また、新たな事業として、本学と叡山電鉄株式会社との間に結ばれた包括連携協定に基づき開設した新スペース「京都精華大学サテライトスペースDemachi」にて、そのこけら落とし企画として京都精華大学展2021」と連携した公募展「京都精華大学展PICKS!」が開催された。「センターとしては、次年度、本スペースをギャラリーとして運用していくのに先立ち、「PICKS!」展の大学との連動および来場者層の拡大に向けた協力を行なった。今後、本学の教育・研究活動をさらに広く市民に向けて公開していくためのスタートを切ることができた。

次年度は、「京都精華大学サテライトスペースDemachi」における申請展の実施・運営や、新ギャラリーのオープン準備・運営、企画展やワークショップ及びイベントの実施、展示スペースの調査等とおして、引き続き、本学及び展示コミュニケーションセンターの活動をより社会に発信していく予定である。

申請展

ラグランジュ点

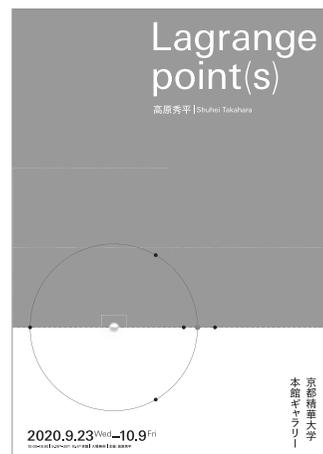
— Lagrange point(s) —

2020年9月23日[水]—10月9日[金]

開館時間 10:00—18:00

会場 京都精華大学 本館ギャラリー

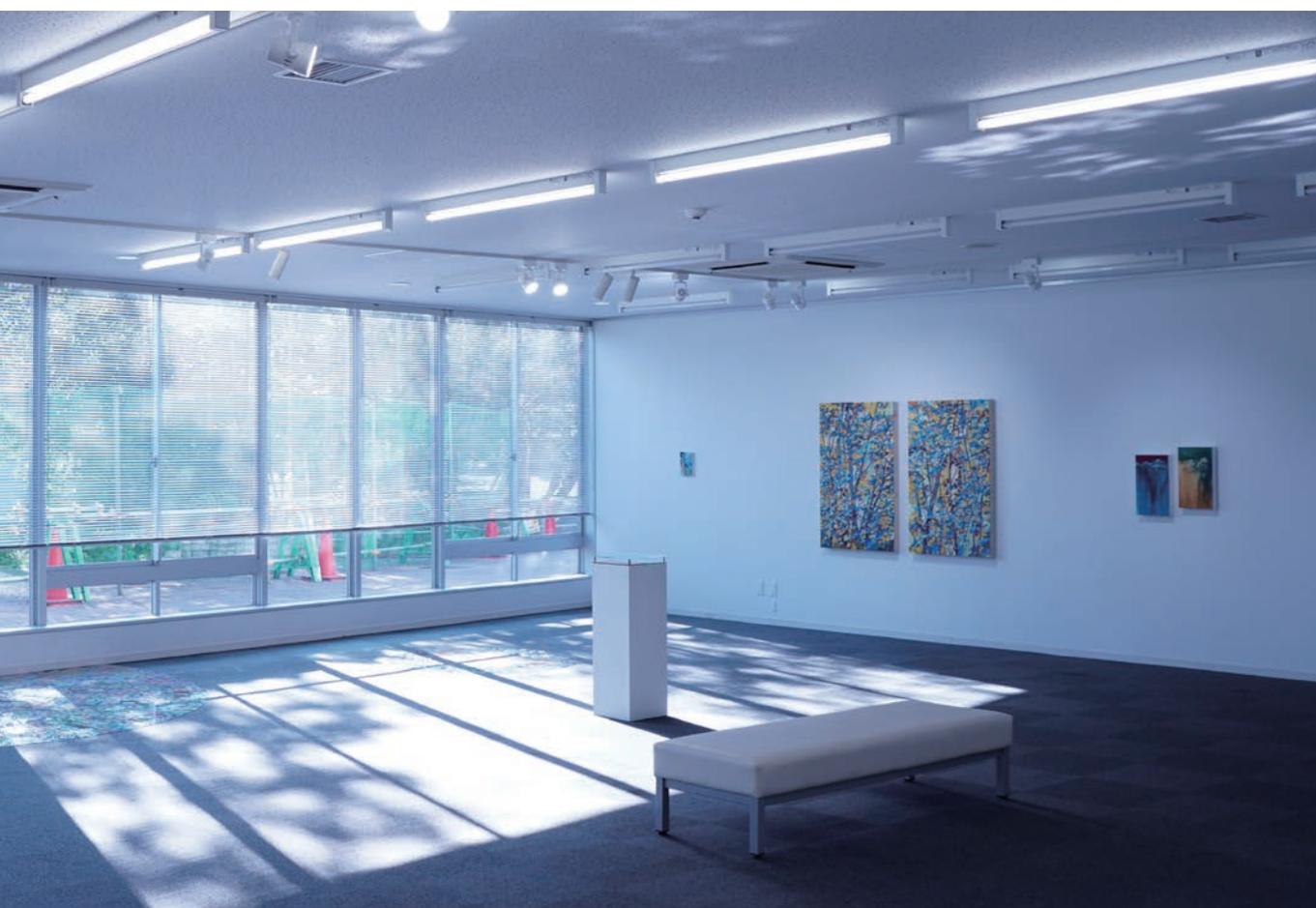
主催 高原秀平



高原秀平（2014年京都精華大学芸術学部造形学科洋画コース卒業）の個展。高原は近年、絵画制作を通して具象と抽象のはざまにある中途半端でありながら心地よい点を探してきた。「半抽象」という極めて曖昧な言葉が使われて久しいが、この不確かな概念に明確な解を求めたいと考えている。

今回の展示では天文学用語である《ラグランジュ点（ラグランジュポイント）》を基点とし、空間を構成した。

宇宙という不安定で揺らぎある環境であっても安定するラグランジュ点のように、具象と抽象の間にも、自身の求める点が確かに存在するのではないか。今回の展覧会が具象と抽象の間にある不明瞭な部分を照らすきっかけとなればと考えた。



参与観察

2020年10月14日[水] - 10月26日[月]

開館時間 12:00 - 18:00

会場 京都精華大学 本館ギャラリー

主催 カクラブ

出展作家 内原和之/おおしまたくろう/
Authenticity/杉山雄哉



足元にうごめく、季節の円環に沿って生生流転する生き物。絶えることなく道路で合図を出し続ける車のウィンカー。感染防止の役割を超えて一種の“マナー”となった世相を反映する、路上の使い捨てマスク。街はシステムが表出する場所である。

「参与観察」は人が社会で生きていく際、必ず行う自然な行為である。

人は観察という行為によって、社会における自分の立場、視座を明らかにすることができる。今回の展示は、赤瀬川原平らの「トマソン」や、みうらじゅんの「飛び出し坊や」「since」など、路上観察学の系譜に連なる試みであると同時に、街や自らに潜むシステムを明らかにし、作者との社会的立場の距離感をもってこれを異化することを目的とした。



グランドクロス

2020年10月29日[木] - 11月9日[月]

開館時間 12:00 - 18:00

会場 京都精華大学 本館ギャラリー

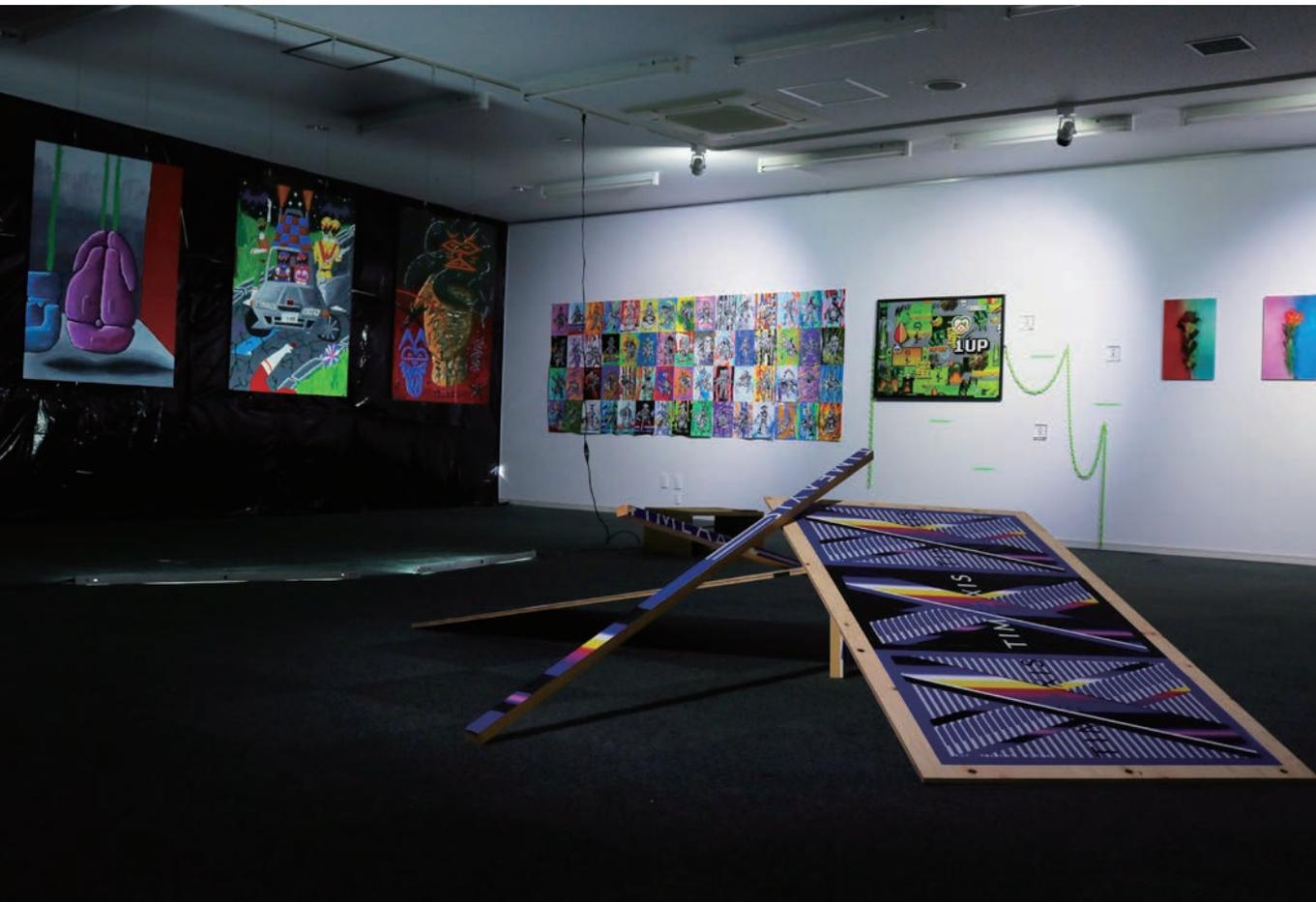
主催 大西晃生

出品作家 新井和洋 / 大西晃生 / 片寄優斗 / 櫻井隆成 /
せのー / 颯廣瀬 / 水田拓実 / 宮崎聖也



展覧会タイトルである「グランドクロス」は西洋占星術における言葉で、おひつじ座、おうし座、ふたご座...などいわゆる黄道十二宮において4つの惑星が十字形にならぶ配列を指す。占星術上では、不吉な星の配置を意味しており、例えば1999年に形成されたグランドクロスはノストラダムスの大予言と重なり、天変地異が起こるのではないかという事で話題になった。また、一部にはイエス・キリストの処刑と重ね、グランドクロスを巨大な十字架に見立てる事で、壊になった地球と共に人類が処刑されるという見方もされていた。しかし同時にこれは、キリストと十字架の関係において復活・再生を意味するものというふうにもとれる。

図らずも世界的に変化の年となった2020年。本展では参加作家たち一人ひとりが全く違う(もしくは共通する部分もある)特徴や性質を持つ惑星となり、ひとつの場所で重なる。そこで見えるのはどのような景色か、展覧会という形式を通して提示した。



LOOPEND

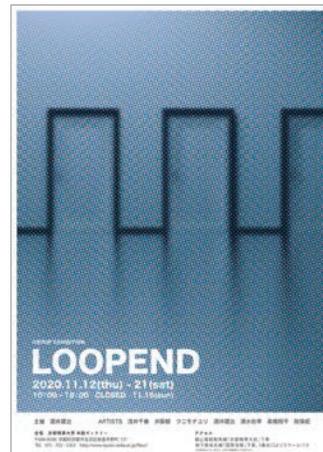
2020年11月12日[木] - 11月21日[土]

開館時間 10:00 - 18:00

会場 京都精華大学 本館ギャラリー

主催 酒井建治

出品作家 浅井千春 / 井阪郁 / クニモチュリ / 清水佑季 /
酒井建治 / 高橋翔平 / 陸瑋妮



密接に関わっていた作者と作品の関係は、完成によってその距離感が変化する。思考と共に手を動かし続けたものを完成とみなした瞬間、それらが自らの行動の履歴としてせき止められる。

余儀なく発表の機会が延期・消失されるような状況の中で制作の際に繰り返される手つきや工程は、イレギュラーな事態に遭遇し乱れてしまった各自の心情的な動きや作品に及ぼす変化をニュートラルな状態に整え、制作にまつわるモチベーションを維持する存在として機能している。絵画、版画、彫刻、テキスタイルなど多様なジャンルの作家から構成された本展では、描画や刷



り、染めといった様々な技法でイメージを定着させていく中で発生する差異が確認されるだろう。「反復」がどのような形で作品に現れ、影響を及ぼしているのか？ その表われを実際の作品群や会場構成から発見いただけたらと考えた。



ひかり

2020年12月1日[火] - 12月2日[水]

開館時間 11:00 - 18:00

会場 京都精華大学 本館ギャラリー

主催 京都精華大学 嵯峨御流華道同好会



23回目を迎える京都精華大学華道同好会の展覧会。日本文化は、四季の中の自然の移ろいに五感を研ぎ澄ませ、様々な芸術に昇華させてきた。それは自然を受け入れ、自然と共存することで発展してきたと言える。しかし、近代化した都市で暮らす私達は、いつしか自然の中に生きているという実感をなくしていた。自然に目を向ける芸術「いけばな」は、そんな私達に人間も自然の循環の一部だと再び気づかせてくれる。この行先の見えない世界に差し込む一条の光のような展覧会を目指し、今回の展覧会を『ひかり』と名付けた。



Style

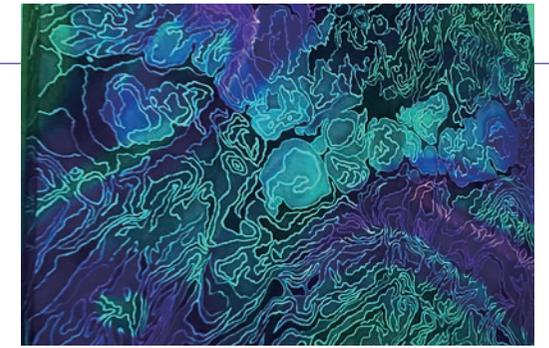
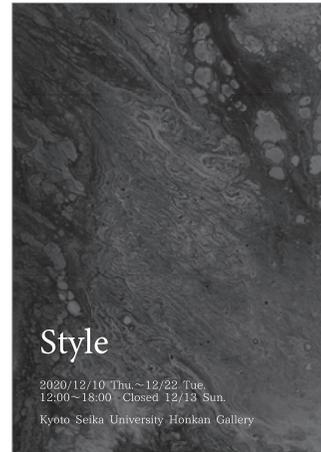
2020年12月10日[木] - 12月22日[火]

開館時間 12:00 - 18:00

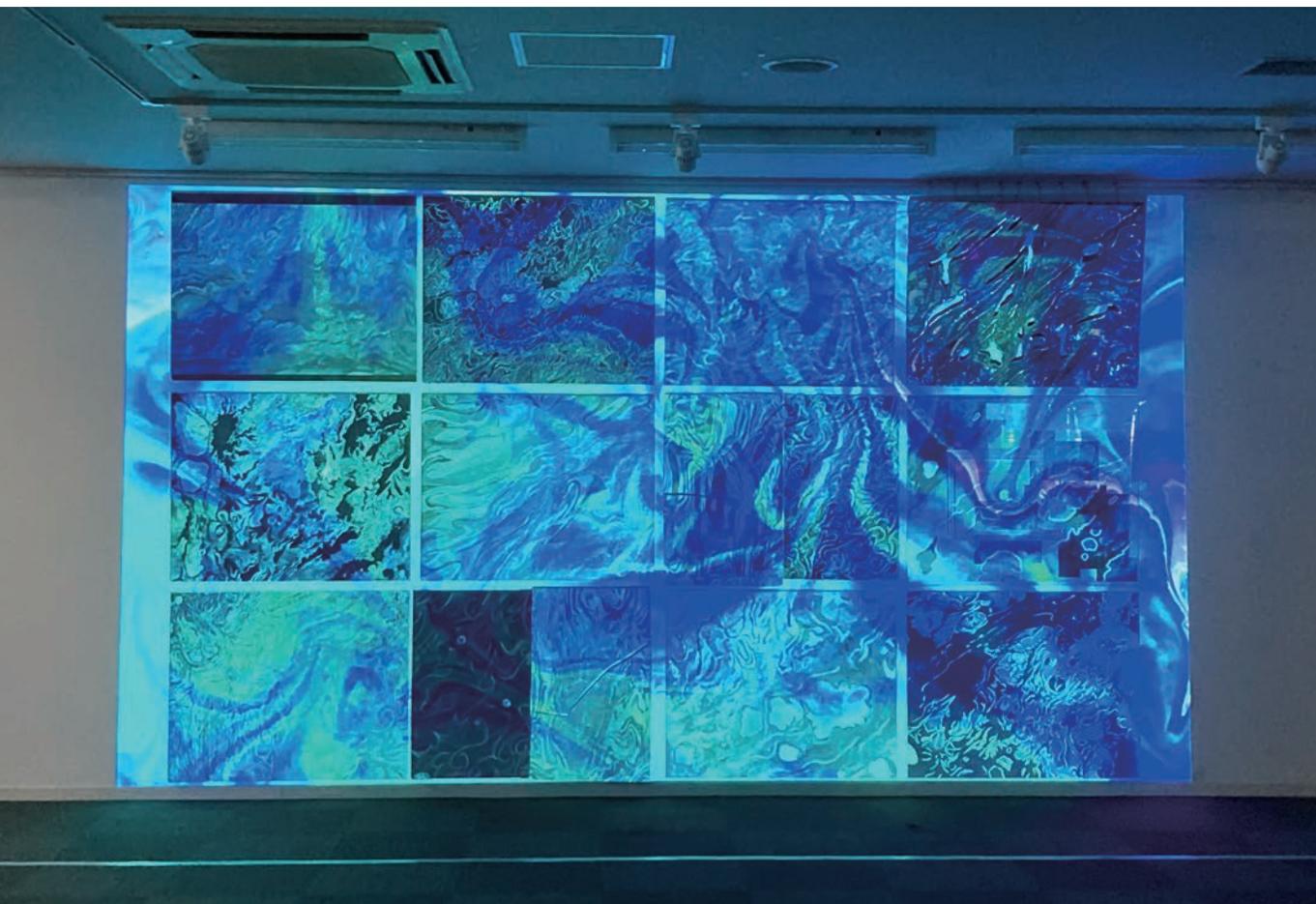
会場 京都精華大学 本館ギャラリー

主催 松本ことみ

出品作家 洋画専攻=橋本夏生(4回生)/増田京華(4回生)/松尾由紀奈(4回生) 日本画専攻=宮本美紗季(3回生)/吉田優人/Kapio(2回生) 版画専攻=水野智鶴(4回生) テキスタイル専攻=今井木野美(3回生)/杉浦野々花(3回生)/平大記(3回生)/松本ことみ/琴海(3回生) 陶芸専攻=橋爪陽(3回生) 立体造形専攻=堀川諒人(4回生)/坂本直輝(2回生) 映像専攻=富永恵太(4回生)/増田峻也(4回生)/芝田佑樹(3回生)/山崎祐哉(3回生)



芸術学部の全専攻、洋画、日本画、版画、テキスタイル、陶芸、立体造形、映像の7専攻の学生が異素材の合作を行なうといった、挑戦的な企画を行なった。原画は、「フロイドアート」という技法が持っている偶然性を活かした一枚の絵。それを分割し、再度組み合わせることによって、この展覧会のメンバーが出会った偶然、その出会いによって紋様が全く違う方法で紡がれていった。それぞれの作家の「Style」をその目を見て、素材や技法の違いをより感じて、より表現できると考えた。



申請展

創造的ドローイング

-作家になる為に How to be an artist

2021年1月8日[金]-1月14日[木]

開館時間 10:00-18:00 (1月14日のみ15:00まで)

会場 京都精華大学 本館ギャラリー

主催 北山善夫

出品作家 平 大記/松本ことみ/吉田美空/池田凧沙/奥野真悠/小林疾風/
竹村 歩/橋爪 陽/矢野萌香/石井敦也/乾 陽光/大谷夕月/黒木莉緒/
午菴くるみ/ツピンディンティム 健人/馬場康治/山根世奈/渡邊光希/
キムハウン/テイヨクコウ/入谷 心/上坂優成/坂本直輝/山下茜里/北山善夫



京都精華大学芸術学部の授業「ドローイング」の成果発表展。各学生が選んだ自分の作品にくわえて、本授業のドローイングも出品した。

関連イベント

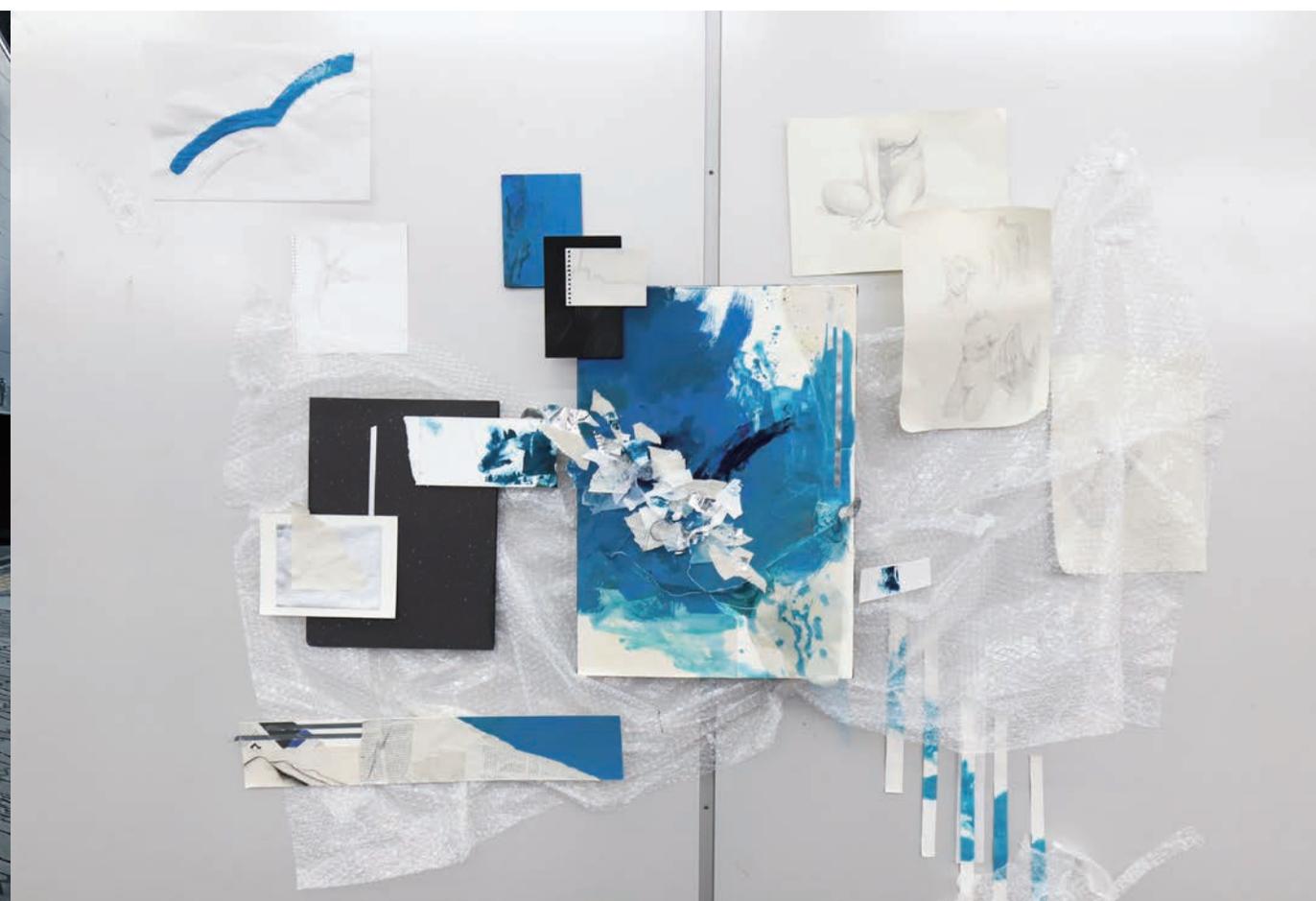
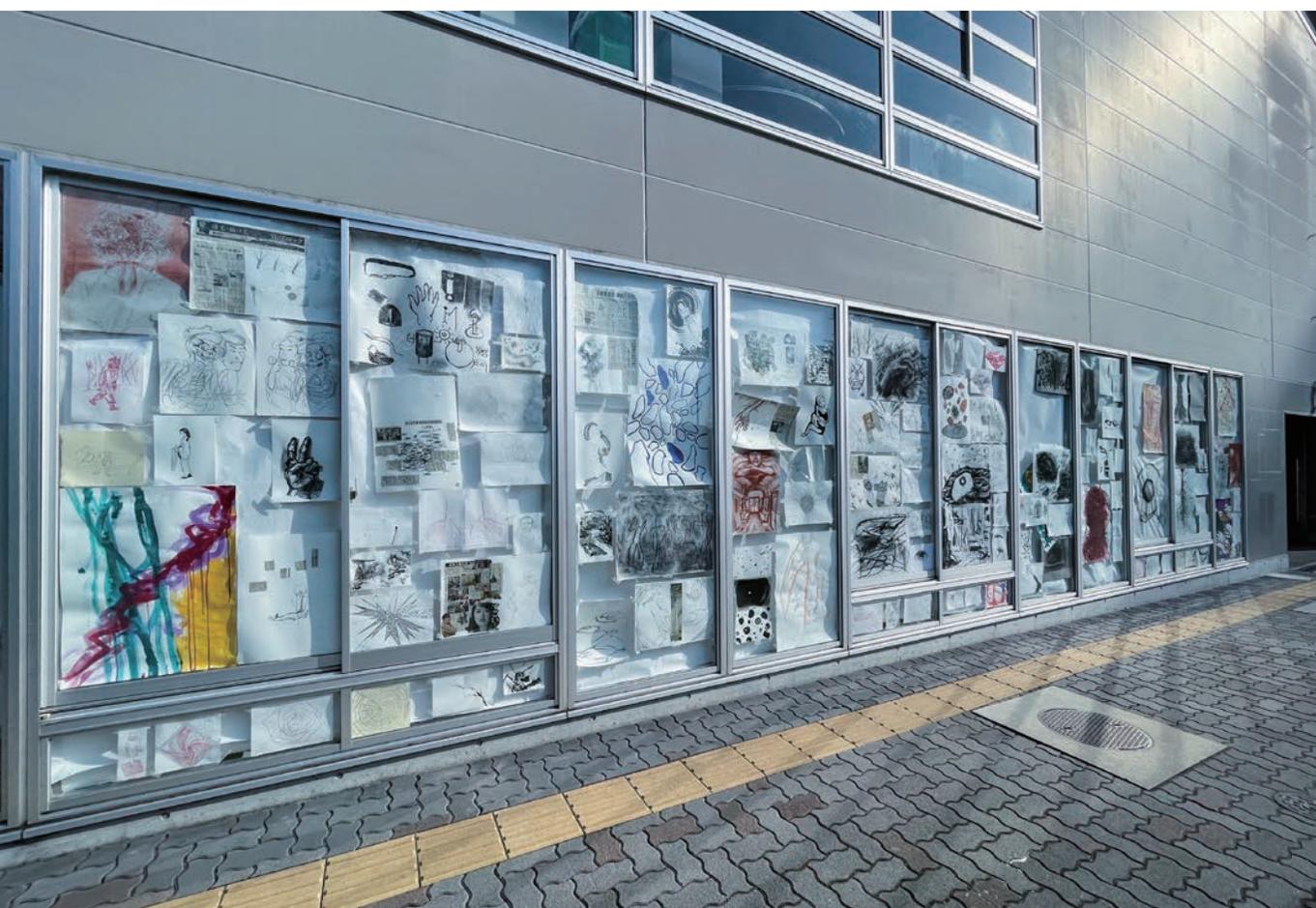
合評

日時 1月14日[木]13:00-15:00

ゲスト 宮永甲太郎

(京都精華大学芸術学部造形学科陶芸専攻教員)

モデレーター 北山善夫



タイカン 後期学修成果発表2021

2021年1月20日[水] - 1月22日[金]

開館時間 11:00 - 17:00

会場 京都精華大学 本館ギャラリー、自在館Z-101教室

主催 京都精華大学芸術学部造形学科1年次共通教育体幹教育



京都精華大学・芸術学部にて2017年度より新たに始まった1年次共通教育のひとつ「体幹教育」。本年度後期は「表現のバリエーション」(デザイン基礎/後期後半)の成果を展示した。「うつす」というキーワードを元にした様々な課題を通して、複製や組み合わせを使った表現の多様性を学んだ授業の最終課題として、本展示会の展示プランニングから設営作業までを学生自身が主導して行った。

※緊急事態宣言発出への対応の一環として、学内者のみへの公開とし、体幹教育公式Instagram (@seikagktaikan)にて学生自身による展示紹介を行った。



京都精華大学大学院1年生研究制作展

Kyoto Seika University 1st Year Graduate Student Show

2021年1月26日[火] - 1月30日[土]

開館時間 10:00 - 17:00

会場 京都精華大学 本館ギャラリー/
瑞雲庵(京都市北区上賀茂南大路町62-1)

主催 京都精華大学大学院芸術研究科/
デザイン研究科

協力 公益財団法人西枝財団

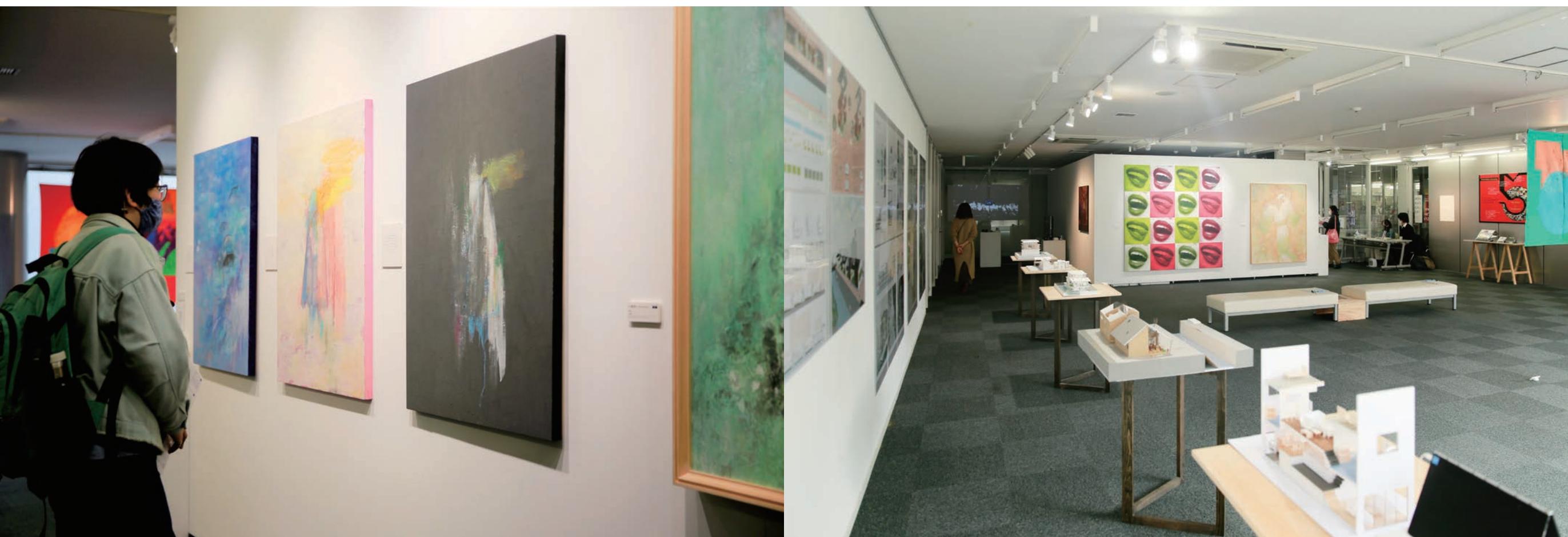
大学院芸術研究科、デザイン研究科の1年生が本館ギャラリーと瑞雲庵を会場に展示を行なった。本館ギャラリーでは、両研究科から、本会場での展示を希望した17名が参加。「企画プロジェクト演習」での授業をとおして、各自の作品プランを深めたほか、広報物の作成や展示プランの検討など、展覧会を開催するために必要な様々な要素を学び、一年間の研究・制作の成果を発表した。

※緊急事態宣言発出への対応の一環として、本館ギャラリーは学内者のみへの公開とした。



関連イベント

作家インタビュー動画を
Instagram (@seika_m1show)
およびYouTubeチャンネルにて配信



日々の観察者

2020年10月24日[土] -

2021年1月10日[日]

開館時間 11:00-21:00

会場 HOTEL ANTEROOM KYOTO | Gallery 9.5
(〒601-8044 京都府京都市南区東九条明田町7番)

出展作家 小出麻代 / 花岡伸宏 / 藤野裕美子 / 松元 悠

主催 京都精華大学

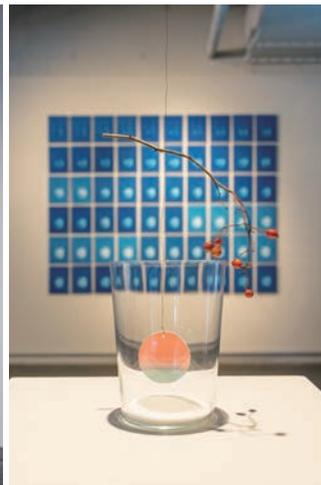
企画 伊藤まゆみ
(京都精華大学展示コミュニケーションセンター特任講師)



グラフィックデザイン
芝野健太



2020年後期企画展として開催。新型コロナウイルス感染症の世界的流行によって、これまでの日常が覆された今、あらためて自分自身と向き合い、日々の暮らしを見つめ直す時間が増えるなか、本学出身アーティストの中から、日々のささやかな出来事や人々の暮らしを観察し、独自の思考と手法で新たな風景を生み出す4名の作家、小出麻代、花岡伸宏、藤野裕美子、松元悠を紹介した。展覧会の内容をより観客に伝えるため、作家インタビューを掲載したハンドアウトの配布や展覧会Instagram (@nichinichi_no_kansatsusha)の運営を行なうと共に、会場に来られない人に向けて展覧会動画を作成した。展覧会をとおして、時代の大きな転換期にいる作家たちの日々の観察者としての表現をご体感いただいた。



京都精華大学展2021 PICKS!

2021年2月8日[月] - 2月23日[火・祝]

開館時間 12:00 - 18:00 (2月11日[土] - 15日[日]は10:00 - 18:00)

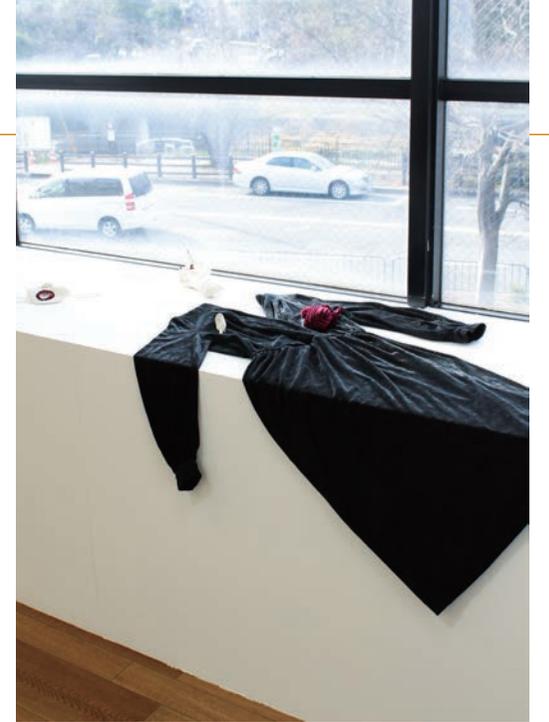
会場 京都精華大学サテライトスペースDemachi
(京都市左京区田中上柳町25-3 京阪出町柳ビル2F)

主催 京都精華大学

出品者 芸術学部 = 岩瀬海 / 里中和 / 武内もも / 津村侑希 / 鐵羅佑 / 中島智靖 / 新見世奈 / 橋本夏生 / 増田京華 / 水野智鶴 / 横山充
デザイン学部 = 郭思嘉 / 陳兆君
マンガ学部 = 三浦麻乃
ポピュラーカルチャー学部 = 伊藤來未 + 竹中太将 / 小山めぐみ
大学院芸術研究科 = 陶玥 / 山下茜里
大学院デザイン研究科 = 方雅婷
大学院マンガ研究科 = 劉有志



叡山電鉄株式会社との「包括連携協定」に基づき、出町柳駅ビルにオープンしたサテライトスペース「京都精華大学サテライトスペースDemachi」の第一弾の展覧会として、「京都精華大学展2021」の会期を含む2月8日から23日までの14日間、卒業・修了展出品者を対象とした公募展を開催。展示を見た方が大学会場での「京都精華大学展2021」にも足を運んでみたいと感じさせる作品を選考し、芸術学部、デザイン学部、マンガ学部、ポピュラーカルチャー学部、芸術・デザイン・マンガ研究科より20組21名が出品した。「京都精華大学展2021」のエッセンスを凝縮した展示となり、大学会場と併せてお楽しみいただいた。



2020年度来場者数

2020年度 本館ギャラリー来場者数

展覧会名	来場者数
申請展「ラグランジュ点 -Lagrange point(s)-」	353
申請展「参与観察」	284
申請展「グランドクロス」	192
申請展「LOOPEND」	333
申請展「ひかり」	153
申請展「Style」	257
申請展「創造的ドローイング -作家になるために How to be an artist」	112
申請展「タイカン後期学修成果発表2021」	118
申請展「京都精華大学大学院1年生研究制作展」	198
年間合計	2000

2020年度 その他展示・イベント 来場者数

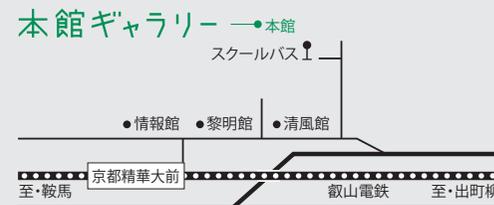
展覧会名	来場者数
企画展「日日の観察者」 会期中宿泊者：4992 芳名帖記入者：291	
京都精華大学展2021 PICKS!	446

利用案内

京都精華大学 本館ギャラリー

京都精華大学 本館1F
〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137

開館日 展覧会開催期間
休館日 日曜日・祝日・大学が定めた日
開館時間 10:00-18:00(展覧会により異なる)
入館料 無料



□ 叡山電鉄鞍馬線「京都精華大前」下車
□ 地下鉄烏丸線「国際会館」下車、3番出口よりスクールバス
※ 駐車場はございません。公共交通機関をご利用下さい。

京都精華大学 サテライトスペースDemachi

京都市左京区田中上柳町25-3
京阪出町柳ビル2階(叡山電車出町柳駅西側)

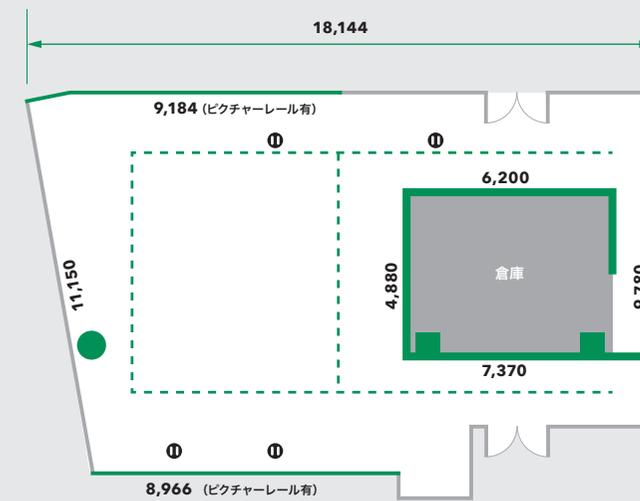
開場日 展覧会開催期間
休場日 月曜日・日曜日・大学が定めた日
開場時間 11:00-18:00(展覧会により異なる)
入場料 無料

お問い合わせ

研究推進グループ ギャラリーフロール担当
京都精華大学 本館2階
〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137
TEL 075-702-5263
FAX 075-722-5440
E-MAIL gallery@kyoto-seika.ac.jp

施設図面

京都精華大学 本館ギャラリー



京都精華大学 サテライトスペースDemachi



京都精華大学 展示コミュニケーションセンター
2020年度活動報告

編集 伊藤まゆみ(京都精華大学展示コミュニケーションセンター)

デザイン 加瀬部敏志

撮影 松見拓也(p24-27)

発行 京都精華大学
〒606-8588京都市左京区岩倉木野町137
www.kyoto-seika.ac.jp/

発行日 2021年3月29日

